

竹林の風

～すべては学校のため すべては子どもたちのため～

県立学校における地域との連携・協働活動特集

栃木県教育委員会事務局
河内教育事務所
令和6年3月19日
発行責任者 西村和孝
http://www.pref.tochigi.lg.jp/m51/
kawachi-kyouiku@pref.tochigi.lg.jp



第74号

河内地区ふれあい学習推進会議

河内地区ふれあい学習推進会議は、管内におけるふれあい学習の推進を目的に協議する会議です。今年度は、6名の地域連携教員を河内地区ふれあい学習推進委員※に任命し、昨年度に引き続き、「学校と地域の連携・協働の推進（県立学校）」をテーマに、地域との連携・協働活動の充実に向けた協議を行いました。その中で、学校と地域の連携・協働活動における生徒、学校・教職員、地域への効果等を見つめ直すことにより、連携・協働活動の意義を再認識できました。また、地域と連携・協働した活動において、生徒が主体的に取り組んだり、地域貢献したりするための工夫を協議することで、生徒の主体的な取組を引き出すアイデア等を見出しました。

河内地区ふれあい学習推進委員※

- 手塚 博子 (宇都宮南高校)
- 阿久津 晃一 (宇都宮白楊高校)
- 高野 史晃 (宇都宮工業高校)
- 津田 理恵子 (上三川高校)
- 池澤 知子 (のざわ特別支援学校)
- 浅野 哲也 (宇都宮青葉高等学園) (敬称略)

1 地域との連携・協働活動の効果

(1) 生徒への効果

- ・協力して活動に取り組み、認められる
- ・自信につながる
- ・ボランティア活動で社会の一員としての自覚が深まる
- ・美術や書道、音楽など自己表現の機会が得られる
- ・コミュニケーション能力が高まる
- ・人と人が向き合うあたかさを知ることができる
- ・幅広い世代の方との交流が、卒業後にも役立つ
- ・校外に目を向け、広い視野で物事を考えられるようになる
- ・目標ができ、進路実現に役立つ
- ・学習や部活動以外の場で輝ける
- ・学校では得られない経験を積むことができる
- ・自分自身を客観視できるようになる
- ・お祭りや特産品など、地域の特色を知ることができる
- ・地域への愛着が生まれる
- ・地域貢献により、地域から必要とされる人間になれる
- ・現在、そして将来の地域での居場所づくりにつながる
- ・学校がある地域への理解を深め、愛校心を高められる

(2) 学校・教職員への効果

- ・校内での生徒の様子とは違う、新たな一面を知ることができる
- ・座学では見られない、生徒の良い面を発見できる
- ・学校や生徒のことを知ってもらい、地域に受け入れられるようになる
- ・中学生に好印象を与える
- ・ボランティアの協力により、業務改善につながる
- ・地域の方の専門性を生かせる
- ・人脈が増える
- ・地域の特性がわかる

(3) 地域への効果

- ・伝統技能が継承される
- ・生徒から頼りにされる
- ・地域住民の活動の幅が広がる
- ・学校に関わることで、生徒や学校の実態を正しく理解することができる
- ・若い世代の声を聞くことができる
- ・若い力で活気づく
- ・地域住民が学校の特色を知る
- ・社会貢献の機会となる
- ・地域で子どもを育てる機会となる

2 生徒が多くの学びを得るために

生徒が地域との連携・協働活動に主体的に取り組んだり、活躍したりすることは、これからの時代を生き抜く力を育てるとともに、地域に愛着を持ち、地域を盛り上げていこうとする意識を高めることが期待できます。

これがポイント!

- 生徒の得意分野及び技術を活かす
 - ・小・中学生にもものづくりを教えること、ミニLR製作・乗車体験、プランター植栽、外来植物の駆除、生徒が作成したイラストの展示、ステージ発表、パンの製造・販売 等
- 生徒が活動の内容や方法を考える
 - ・まちづくりイベントにおける「折り紙ワークショップ」の企画・運営、放課後児童クラブにおける「輪投げ」や「スタンプラリー」等の交流活動の企画・運営 等
- 生徒が活動を振り返り、自分の考え等を発信する
 - ・総合探究の時間の成果を自分の言葉で全校生徒に発表 等
- 生徒が地域住民と直接関わり、感動を共有する
 - ・地域住民を対象としたクリスマスコンサート、地域の自治会と協力した寄宿舎防災訓練の実施 等



河内地区地域連携教員研修（県立学校）

10月17日（火）に、河内地区地域連携教員研修（県立学校）を実施しました。ふれあい学習推進会議における推進委員の意見を反映し、以下の情報交換及び協議を行いました。



1 情報交換「各校の地域との連携・協働活動について」

参加者は、各校の取組について話を聞き、部活動を通して小・中学校との連携の実践例や、生徒が自分で何ができると考えたことで、主体的に活躍することができた取組などについて知り、地域連携教員としての視野を広げました。また、各校の地域との連携・協働活動は学校の特色や地域の実態に応じて多様であるが、生徒の「生きる力」の育成や将来地域で活躍する人材の育成など、目指す生徒の姿は共通であると参加者が感じる機会となりました。

2 協議「地域との連携・協働活動が与える生徒への効果について」

地域との連携・協働活動を通して生徒が成長することを再認識し、その価値を改めて実感する機会となりました。

参加者からは、「自分の力でやり遂げる必要性を感じ、主体的に努力できるようになる」「教室での学習では経験することが困難な体験をすることで、人間として成長できる」「高校生の時期だからこそ、地域との連携・協働活動を行うことは意味がある」などの意見が出されました。

生徒の生きる力や豊かな人間性の育成

- コミュニケーション能力の向上
- 自己肯定感・自己有用感の向上
- 視野が広がる
- 地域理解を深める
- 地域の一員としての自覚の向上
- 社会性の向上
- 主体性の向上
- スキルアップ
- 地域愛を育む
- など

地域との連携・協働活動

- ※多様な人々とのふれあい
- ※多様な見方・考え方

【協議の結果から】

河内教育事務所による支援訪問

河内教育事務所職員と地域連携教員が取組の現状や今後の方向性等について話し合うことを通して、地域連携教員が現在実施している地域との連携・協働活動の価値を再認識したり、具体的な活動の手立てを考え出したりする機会となりました。

【宇都宮東高等学校では】

地域との連携は、何か新しい、特別なことを実施しなければならないのではないかと考えていました。



【盲学校では】

生徒が地域に貢献する活動や、学校や地域の特性を活かした活動の方法を模索していました。

【支援訪問を実施して】

○現在、生徒とともに取り組んでいる自転車ヘルメット着用の推進や、関係機関や保護者、地域関係者と協働での交通安全立哨活動などが、地域住民、特に小中学生に良い影響を与えていることに改めて気付きました。今ある活動の価値を再認識する機会となり、必ずしも新しい活動を始めなくてもよいと分かりました。

【支援訪問を実施して】

○生徒が製作した点字用紙のコースターを地域住民に使っていただくことで、地域に貢献するとともに、学校の特色をPRすることができるのではないかと一緒に考えました。県庁昭和館のふくしレストランなどを配布先の候補とするアイデアは、参考になりました。